女性経営者・幹部に聞く in 埼玉

食品加熱用瞬間発熱剤で 需要拡大

協同（入間市）
社長
守屋（もりや）　京子（きょうこ）さん

協同（埼玉県入間市）は、昭和41年に現会長の守屋勇治氏が板橋区で金属加工業として創業。社長の守屋京子さんは会長の養子として入社37年のキャリア。会長を補佐し業務推進の主な立役者を担って来たが、10数年前に大きな転機が。「旧事業は従業員にのれん分けし、埼玉県入間市に移転しました。以降、会長と私含む総勢3人で、ほぼゼロからのスタートでした」と振り返る。

「小さくとも自社製品を持ったメーカーになる」が信条。「会長が、アルミ主原料の瞬間発熱剤『モーリアンヒートパック』を独自開発。火や電気がなくても水を注ぐだけで高温の蒸気を発生し、短時間で飲食物を加熱調理できる製品として、日本、韓国、EU、米国などで特許を取得しました」と誇らしげ。

同瞬間発熱剤は世界でもオンリーワン製品。その安全性や使いやすさ、使用後に一般ゴミとして廃棄できる環境親和性にも高い評価が。「自衛隊や海外の軍隊、官公庁備蓄用、防災グッズ向けなどに採用されています。東日本大震災では、自衛隊の被災地支援や原発事故の作業員向けにも利用されました」と明かす。

蒸し料理用発熱剤としてや、レトルト食料パック組み込み用などに採用が相次ぐ。「瞬間発熱剤の副産物で発生する水素を利用した手軽な水素水生成ポットを他社と共同開発しました」と未開分野にも期待をこめる。

内製化率向上で 顧客満足度向上

野火止製作所（新座市）
専務取締役
川上（かわかみ）　左池子（さちこ）さん

協同（埼玉県入間市）は、昭和41年に現会長の守屋勇治氏が板橋区で金属加工業として創業。社長の守屋京子さんは会長の養子として入社37年のキャリア。会長を補佐し業務推進の主な立役者を担って来たが、10数年前に大きな転機が。「旧事業は従業員にのれん分けし、埼玉県入間市に移転

野火止製作所（埼玉県新座市）は、創業50年を超える板金・レーザー加工メーカー。社長を補佐し、安定した経営指針を担うのが専務の川上左池子さんだ。自社ブランドとしてのアクセサリー製品ではデザインも手がける。ここ2年でトルンプ製ファイバーレーザー加工機、同溶接機、バリ取り面取り機を新たに導入した。「短納期、高品質化がますます求められる中で内製化を進めています。トルンプ製ファイバーレーザーは薄板だと従来比10倍の加工速度。同溶接機は溶接痕が目立たず、薄板溶接もゆがめずにできます。大幅な省エネ化も実現しました」と笑顔。

看板などのサイン事業と、各種部品加工が二本柱。早くから受注などのペーパーレス化を進めており、三次元CADも3台保有するなど先進技術力を込める。

アクセサリー事業も、コンスタントに注文が入る。新たに始めたゲーム式募金箱も大きな話題に。「同事業は、主に当社の技術力を表現する場にしたい。従業員の創造性を生かし、社員のアイデアもどんどん自社製品に取り込んでいく」と意欲的だ。

社員が長く働ける 環境にしたい

総合建設業のエム・テック（さいたま市浦和区）は関連会社を含む400人強の社員のうち女性が約3割いる。役職付きの女性社員は10人以上、5年前から女性役員を登用し、役員のうち2割以上を女性が占める。「現業を含め、女性を敬遠する体質はなくなった」と常務の松野史さんは実感を込める。

同社は特にこの5年ほど男女問わず若手を積極的に採用し続け、採用人数が30人を超える年もあった。細かな気遣いのできる女性を総務にする一方、目を輝かせて現場に出ている女性も多くいる。「当社は女性技術者も産休後に現場へ復職できる環境があり機に辞めても子育てを女性も多い。ず、内勤外員が長くたい」という若手女性の納得がカギには母、妻支えることでまずがん」に実感がわきが改善する「『母になる

仕事場で職人育てる、自己実現の

5月に創業50周年を迎えた永井機械鋳造（埼玉県川口市）。西沢禅さんは、鋳物の町『川口』で生まれ育ち、12年2月から急逝した父親から社長業を継承した。今年1月には鋳造業の心臓部「電気炉」を更新。今まで以上に気を引き締めて経営の指揮をとる。

鋳造部、製缶部、ゼオライト事業部の、三つのモノづくり部門を持つ同社。従業員数30人弱で平均年齢は40代前半だが20代は5―6人と、勢いのある若手が多く活躍している。売り上げの8―9割を占めるのは鋳造部門だ。ゼオライト事業部は実はそこから派生した。鋳物廃砂を利用した人工ゼオライトの消臭・調湿剤『ECOMO（エコモノ）』は高まりや時代の後押知度も高ま

日本のモ寧で、本当ものをつくそ現場の若仕事が自己るよう「工しっかりし